

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	武蔵野大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ムサシノダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	国内インターンシップ関連科目(インターンシップ(事前研究)、インターンシップ1、インターンシップ2)
	学部・研究科等名	文学部、グローバル学部、法学部、経済学部、人間科学部、工学部、言語文化研究科
	担当教職員名・役職	国内インターンシップ専門委員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	183
	受入企業等数	56
	受入企業等名	大成建設株式会社、株式会社ミットヨ、株式会社RayArc、アッシュ・ペー・フランス株式会社、江東区役所、西東京市役所、株式会社エイチ・アイ・エスなど
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ.5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ.6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ.7.中小企業でのインターンシップ.8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事.2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・海外の顧客に対する見積書の作成やインボイス、パッキングリスト等、商品の海外発送に必要な書類の作成など(株式会社栃木屋)・若者の投票率向上のための啓発活動を職員と協働して企画・立案を行い、職員の前でプレゼンテーションを行う(江東区役所)
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している.7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部2~3年次、大学院1年次
要素③	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1~3単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に2~3年次を対象に、インターンシップに必要な最低限の知識、能力、心構えなどを学ぶ「インターンシップ(事前研究)」を履修した学生を対象に、夏季もしくは春季に1週間~4週間程度の実習を実施している。本科目では、志望業界、職種の実際を理解し、自己の将来設計に結び付けることをねらいとしている。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている.2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
要素④	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている.3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全8回の事前学習の中で、インターンシップにあたっての心構えや目的の理解(第1回)、ビジネスマナー研修(授業時間外)、企業研究(第6回、第7回)、インターンシップ時の目標設定(第8回)等を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験と自らの学びがどのように繋がったのかを振り返る目的で、インターンシップ後に教員による個別面談やグループワーク等を用いたフォローアップ授業を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	教員が学生から実習内容をヒアリングし、実習内容により企業評価(5段階評価)を実施している。著しく内容の評価が低い実習先については職員が現場の確認、担当者よりヒアリングを実施し、双方で実習内容の改善を図っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習前後に目標設定や達成度のレポートを作成させることで、学生のインターンシップ前後の変容を把握し、実習での経験が進路決定の指針となるよう指導している。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習先へは大学側から実働5日間以上のインターンシップを実施いただくよう依頼している。結果、多くの実習先で連続5日間の実習が実施されている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学が用意した「実習ノート」に日々の取り組みの様子を記録して頂いている。実習終了時には5段階評価にて実習生を評価して頂いており、学生へのフィードバックとしても活用している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	武蔵野大学
	担当部署名	就職・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	勝又、武田、神田
	電話番号	03-6865-1025
	メールアドレス	internsp@musashino-u.ac.jp